

2021 年 3 月 31 日

寒川町相談支援事業所ゆいっと

① 支援者支援

(1) 保育士支援（幼稚園・保育園支援）

- ・支援内容：発達につまずきや気になる児童が存在しているクラス運営やその子にあった保育（支援、環境設定）について、担当保育士等に助言を行う。
- ・実施期間：2020 年 7 月～2021 年 3 月 31 日
- ・相談件数：37 件

7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
4 件	1 件	3 件	1 件	2 件	5 件	3 件	15 件	3 件

- ・相談内容：保育士支援シートを利用（障害福祉課提出済み）
- ・支援内容：担当保育士等が事前に記入した保育士支援シートをもとに、対応に困っている場面および通常の活動場面の行動観察を実施、その後担任職員とのフィードバックを行い今後の対応を一緒に検討、状況により支援環境等の助言を行った。行動観察 90 分、別日にフィードバック最大 60 分を目安に設定したが、昨年度同様相談内容によってはフィードバック時間が延長となっている。（最大 30 分程度）

(2) 支援者向け勉強会

- ・支援内容：座学と実践を織り交ぜた研修を実施。
- ・実施状況：コロナウィルスの影響を受け、今年度は研修実施できなかった。

(保育士支援実施における考察)

コロナウィルスの影響を受け、年度当初は園自体の通園開始も遅れたことにより昨年度から継続利用している園については、その期間を電話相談での対応も行った。また今年度、実施園の職員対象にアンケートを行い、その結果が別紙（保育士支援アンケート結果参照）の通りである。アンケート結果をもとに実施園（園長・主任）との振り返りでは、客観的かつ専門的な視点、アドバイスが参考となっただけでなく、相談できる場のある安心感・支援に対する職員間の共有・連携の深まり等、支援者（保育士等）自身が一人で課題を抱え込まなくてよい環境へと変化に繋がられている。

今年度はコロナウィルスの影響で研修も実施はできなくなりましたが昨年の実績から、来年度はケース検討のように事例を通した具体的な支援の勉強会等の実施を望まれている。さらには、関係機関との連携、特に療育機関（児童発達）からも児童期における専門的な知識や情報が得られる研修の希望もでておりその背景には、子ども一人ひとりを理解して対応していきたい支援者（保育士等）の意識の高さともいえる。だからこそ通園先だけが支援を行っていくのではなく、町で生活する子ども一人ひとりに対して寒川町としての支援体制の必要性を求められている。

② 家族支援

(1) 家族勉強会

- ・内容：その子を理解するきっかけづくりの場として実施。
- ・実施状況：コロナウィルスの影響を受け、実施できなかった。寒川町主催で6回コースの短縮版で、神奈川県発達障がい者支援センターかながわエースとの共催形式を取りペアレント・トレーニングを実施予定であったが実現せず。次年度は本来の9回コースで実施を検討。

(2) 家族サロン

- ・内容：家族同士の情報交換と支え合いの場、互いの学びと気づきの場と機会を提供することを目的に実施。
- ・実施状況：コロナウィルスの影響でサロンの実施はできていない。
ただ、今年度は寒川町子育て支援センターとのコラボ企画で、センターを利用している保護者の困りごとや不安を直接伺う機会が1回と、センターに寄せられた質問に対し、返答コメントをかえし掲示していただく取り組みも2回行った。センターによれば、返答コメントも好評で、質問していない保護者も掲示物を見ており反応は良いようである。

③ 2年間実施した中での考察と今後の課題

(1) 考察

この事業が開始する前まで保育士や園は、どこにも誰にも相談できず自分たちだけで抱え、対処してきたと言えるだろう。保育士や園が抱える不安や困りごとが、この事業により明白になり、アンケートの結果からも微力ではあるが多少の不安軽減や自信回復に寄与できたと判断している。

保育士、園の理解やスキルが高まれば、ほんとの意味での「インクルーシブ」な保育・幼児教育が寒川町で展開できていくのではないだろうか。

(2) 課題

課題として次の3点があげられる。

1) 横断的連携

この間、園から聞かれたのはその子や家族に対しての情報の少なさであった。情報がなかったゆえに、本人にとっても園にとっても苦しいクラス配置になったことも事実。

情報共有の仕組みの確立とその後のフォローアップ体制づくりは必須ではないか。

2) 縦断的な連携

幼児期に受けられていた支援体制を学齢期へどのように繋いでいくのか。子どもや親が、ライフステージの変化のたびに不安にならずに済む仕組みづくり。

3) 町全体の子ども・子育て支援のボトムアップ

現在は特定の園（興味関心が高い園）での実施にとどまっている。研修会の在り方を工夫しながらケース検討等も含め、園内だけのつながりだけでなく、町内での保育士同士のつながりを作ることで保育士支援の実施園の増加と、障がいがある子や発達につまずきのある子に対する保育の質の向上が図られる。